

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100109		
法人名	株式会社オオキタコーポレーション		
事業所名	グループホーム夢楽園 (わかば)		
所在地	岡山県岡山市南区福島3丁目5-15		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 30 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100109-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100109-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12
訪問調査日	令和 5 年 1 月 19 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には桜の花見、秋には畑で芋ほり、園庭の緑・季節の花や自然と触れ合って四季の移り変わりを感じていただける環境作りを行っています。ご利用者一人ひとりの出来ること、したいことに注目してその人らしく生活していただけるように、個別性を大切にしたケアを考えています。楽しみのひとつである食事については、食べることへの意欲や興味が深まるように毎月リハビリクッキングを行ったりと、ご利用者に何らかの形で食事作りに参加していただけるように支援をしています。現在は地域との交流は控えている状況ですが、地域やご家族のボランティアの方との関わりを大切にしており 皆で支えあって生活していると感じていただける施設作りを行っています。ご利用者皆さまに楽しみがあり、安心できる場所、笑顔があふれるグループホームを目指しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点として上げられるのは、次の3点である。まず、リハビリクッキング(月1~2回)を通じて、個々の残存能力の維持・継続に繋げていること。二つ目に、利用者の食べたい物を取り入れたバイキング形式での食事やお弁当購入など、非日常的な気分を味わいつつ、楽しく食事ができる様に支援していること。三つ目に、コロナ禍の中、感染対策を徹底しながら積極的に外出する機会を増やしており、利用者及び職員の気分転換・ストレス発散になっていることがある。工夫点としては、より質の高いケアを目指し、言葉遣いの向上に向けて個人目標を設定していることがある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員には入社時のオリエンテーションで説明している。意識づけが出来るようにスタッフルームと玄関に掲示している。	スタッフルームと玄関に掲示し、周知すると共に、年1回、全職員を対象とした理念研修を行っており、ケアを見直す時など、振り返るように指導している。新人職員に対しては、入社時に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の小学校や保育園、町内会とも交流を控えており出来ていない。	コロナ禍のため現在は実施していないが、小学校の行事に参加したり、保育園と交流したり、ボランティアが来訪したりしていた。町内の溝掃除にホーム長が参加し、挨拶したり会話したりして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア(婦人会や中学生の職場体験など)で、ホームを訪問して頂く事によりホーム内での様子を知ってもらえるように努めている。現在は新型コロナ感拡大のため実施しておらず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症対策で書面会議としている。ご意見や要望があれば個別にうかがう事している。	2ヶ月に一回書面会議を開いており、参加メンバー全員に議事録を送付している。意見等は電話で聞いたり、来訪した際に聞き取っている。地域包括から、コミュニティプラザでやってるカフェや地域の防犯、8050問題等の情報を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響で来園の機会が減少し、意見交換の場があまりなくなっている。窓口では生活保護受給のご利用者様の生活状況について現状の報告をしたり相談をしている。	運営推進会議が書面会議となり、直接、市担当者や地域包括等と話し合う機会は少なくなったが、聞きたい事や分からない事があれば、書類を届けに行ったり電話した際に聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社オリエンテーションで「身体拘束等適正化のための指針」をもとに指導をしている。また、3カ月ごとの身体拘束適正化検討委員会で事例検討し職員全員の身体拘束に対する意識の向上を図っている。	3ヶ月に一回、身体拘束適正化検討委員会を開いており、その中で日頃から疑問に思っていることを検討している。また、年2回内部研修も実施しており、身体拘束に関する理解度は高くなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社オリエンテーションで「高齢者虐待防止法」をもとに不適切ケアについて話をしている。また、言葉遣いの乱れがケアの乱れに繋がることより、接遇改善に向けて「個人目標シート」で個々に意識付けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画で権利擁護についても組み込んでおり、勉強会を実施して職員に周知を図った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明をするように心がけている。料金、リスク面や看取りへの対応についても納得を得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の思いを遠慮なく相談して頂けるような雰囲気づくりを心がけている。外部の相談窓口についても利用契約時には説明している。	家族は面会時に、利用者は日頃の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族から外出・外食について聞かれた時は、コロナのため個別対応できない旨を伝えている。利用者の要望(出かけたり、買い物に行きたい)に対しては、柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が発言しやすい環境になるよう日頃からコミュニケーションの機会を持つようにしている。またスタッフ会議では参加スタッフが意見を出しやすい様に配慮している。	個別面談は行っていないが、スタッフ会議(月1回)の他、日頃から雑談を交えて話し合っている。職員から出た意見等(特浴設備の設置、休憩室の環境整備など)は上司に相談すると共に、要望等は、施設会議(月1回)の時に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の良好な人間関係や、ストレスの要因の把握に努めている。個々の能力や得意分野を活かすことが出来る環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには社内研修には積極的に参加してもらっている。未資格のスタッフについては認知症基礎研修の受講を勧めており、ほとんどのスタッフが受講終了してきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修で意見交換をし、ケアの改善や見直しに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の困っていること、不安なことをまず十分聞き取り、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立って思いを理解し、これまでの経緯をしっかりと伺うよう努めている。ご家族の要望に対して事業所として出来る対応をきちんと伝えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族の要望を聞く中で、必要なサービスが受けられるように支援している。出来る限り柔軟に対応させていただき、理解が得られるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることや、こだわりを理解し、得意分野には参加していただき教えていただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所を訪れやすい雰囲気心がけているが、コロナ渦になってからは動画や写真でお互いの様子を伝えられるよう、ご家族にLINEのやり取りの支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、知人や親せきと電話での連絡や、手紙のやりとりが継続出来るよう支援している。普通だった馴染みのある店に行ったり、つながりを大切にしている。	電話の取次ぎや年賀状のやり取りなど、馴染みの関係が途切れない様に支援している。また、コロナの状況を見ながら、積極的に近所の店に買い物に行ったり、馴染みの図書館に出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段からご利用者同士の関係性に気を配り、仲間であるという意識を持って頂けるように関わっている。気の合う方同士で何かに取り組んでいただくなど配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの暮らしを継続していけるよう必要な情報の提供を行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にしづらい思いも、日々の行動や表情などから汲み取り、把握に努めている。	思いや暮らしの希望等の把握が難しい時は、利用者と家族が会話している時に横で聞いたり、生活歴を確認したりして対応している。また、利用者の思いに沿ったケアができているか、もっとこうしたいなど、日々自問自答しながら把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ詳細なフェイスシートを作成し、ご本人の情報を共有して支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムや習慣が違うことを理解し、その人らしく暮らしていくための支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中での気づきや、ご本人の要望、ご本人の視点での課題について、担当スタッフを中心にカンファレンスを行って介護計画を作成している。	入院等、状態が変化した時はその都度、モニタリング結果や日々の申し送り等で得た情報を基にカンファレンスを行い、ケアプランを見直している。また、主治医や事業所内の看護師から医療面に関する意見や提案等が出た時は、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意して、気づきや状況変化を把握している。介護計画が反映された、ご利用者の暮らしぶりが目に浮かぶような介護記録を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、医療機関への受診、通院、送迎等必要な支援は予定外であっても柔軟に対応出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議を利用して地域包括支援センターとの情報交換を行っている。(現在はコロナ禍のため参加して頂いていない)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関と連携しながらいつでも適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所の協力医がかかりつけ医であり、24時間体制で適切な医療を提供している。緊急時の対応はスピーディーであり、(緊急時に関わらず)直接主治医から話してくれるので、安心感がある。歯科はその都度、往診対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はご利用者の変化や気づきをこまめに記録するようにしている。その中で看護職と相談しながら適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、ご本人のストレスや負担を少なく出来るよう努めている。早めに元の生活に戻れるよう、医療機関・ご家族とも情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をふまえて、医師、職員と連携を取りながら希望に沿った最期を迎えられるよう取り組んでいる。	入居時、指針の説明を行い、確認のサインを貰っている。重度化する前から、その都度、医療的な部分は主治医が伝え、ホーム長が食事量などの現状を説明しながら、家族の希望や今後の方針を決めている。また、年1回看取りの研修を行うと共に、ケアカンファレンスの時に対象者がいれば、看取りの指針等について勉強会を開いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルスの感染者の発生も含め、緊急時や事故発生時に慌てず管理者、看護師、医師との連携ができるように勉強会で対応について周知徹底を図っている。防護具の着脱方法等の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方や近所の方にも避難訓練に参加していただいている。反省点は次回の訓練に生かせるようにしている。(現在はコロナ禍のため参加して頂いていない)	コロナ禍のため、消防署の立ち合いや地域の方の参加はないが、年2回、火災訓練及び水害・洪水・地震を想定した訓練を行い、消防署に報告している。また、水やお粥等の備蓄や持ち出しグッズを2階倉庫に保管している。	マニュアルの確認・実践に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの改善に向けて個別に目標設定し、指導を行っている。毎月の勉強会では事例を挙げながら話し合い、意識の向上に努めている。	赤ちゃん言葉を使用しない、大きな声を出さない、トイレのドアを開めるなど、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。また、職員同士で会話する際の言葉遣いや、言葉がきつくなってしまう時の意識付けなど、カンファレンスの中で「言葉遣い」について研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合を押し付けず、ご利用者が自己決定できるように、個々に合った言葉かけを行いご利用者本位の支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、ひとくくりでなく個別の思いや希望を尊重した過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みをお聞きしながら衣類を選んでいただいたり、訪問理美容の時にはヘアスタイルの希望をお伝えするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きや食器洗いなどの食事に関わる作業に参加していただいたり、好きなメニューをお聞きしてリハビリクッキングの日に一緒に調理をして食べる楽しみに繋げている。	利用者が食べたい物をバイキング形式で提供したり、食べたい弁当を買って外で食べたり、流行りの物(フルーツサンドなど)を取り入れたりして、食事が楽しくなるように工夫している。また、月1~2回リハビリクッキングの日を設け、一緒に皮むきしたり切ったりして、残存能力の維持に努めている。季節メニューや行事食もあり、利用者にとって喜び・楽しみの時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、個々に合った食事形態で1日の必要量が確保できるよう支援している。食事量や食器等も個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で口腔ケアをしていただき口腔内の清潔保持に努めている。必要な方にはスポンジブラシやコンクールを用いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者個々の排泄パターンやサインを全職員が把握し、尿意のないご利用者にも時間を見計らって誘導している。リハビリパンツやパッドもその方に合った物を状況に応じて検討している。	排泄記録により、個々の排泄パターンを把握している。昼間は、トイレ誘導とリハビリパンツ、パット交換で対応し、夜間は、リハビリパンツやパット交換、ポータブルなど、個々の状態・状況を観ながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、トイレで排便できるようにしている。水分量や食事量にも注意し、主治医に相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を重視しながら、職員と1対1で関われるゆったりとした楽しい時間になる様に配慮している。寒い時期には入浴剤を入れたり、冬至にはゆず湯を楽しんでいただいている。	週2～3回の入浴を基本とし、毎日入りたい利用者の希望はなるべく叶えている。入浴を拒否する時は、職員や時間、曜日を変えながら対応している。ゆず湯や入浴剤の色・香りで楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムを整え、午睡の必要な方や就寝時間の遅い方など個々に応じた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方に変更があれば申し送りやケアボードで周知し、状態の観察に努めている。配薬方法の見直しをし、職員の配薬ミスのないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の楽しみや、得意な事で力を発揮していただき、その方らしい姿が見られる場面作りを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策のためご家族との外出は出来ていない。気分転換に園庭を散歩したり、図書館に本を借りに行ったり一人ひとりの希望には添えていないが、外出の機会を設けている。	日常的に事業所周辺を散歩したり、庭や畑に行ったりしている。また、感染対策をした上でコロナの状況を見ながら、初詣に地元の岡南神社へ行ったり、秋に浄化センターのコスモスを観に行ったりしている。家族との墓参りや外出・外食は中止している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力のもと、お財布を持っているご利用者もおり、買い物に出たり、移動販売の日にはお金を使っていただく機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に相談の上、希望時には電話をかけていただいたり、年賀状・暑中見舞いを出していただく支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関には園庭の季節の花を生けて楽しんでいただいている。ホールではテーブルを増やし、気の合うご利用者でくつろぐ事が出来るよう配慮している。	日中定期的に窓を開けて空気を入れ替えることで、適切な温度・湿度を保っている。また、庭で取れた花を生けたり、季節の創作品を掲示して、季節感を醸している。1階のテラスで日光浴したり、共有ホールで職員と会話したり、運動するなど、個々の生活リズムで居心地よく快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル以外の場所にもイスやソファを置き、くつろげるスペースを作っている。1Fはテラスにもイスを置き、ご利用者同士で日光浴をしたりゆったりとした時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、ご本人の思い出の写真やなじみの物を配置して、安心感のある環境となるようにご家族にも協力をお願いしている。	庭で取れた花を生けたり、好きな歌集や自分で書いた絵、趣味の物(手芸品等)を持ち込んだり、家で使用していた物を使用したりして、個々に居心地良い空間になるよう工夫している。家具等の配置は、家族と相談しながら決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が安心して過ごせるように、危険防止と自立支援の面で物の配置等に配慮している。居室においてもご本人の状況にあわせた環境の改善に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100109		
法人名	株式会社オオキタコーポレーション		
事業所名	グループホーム夢楽園 (かえで)		
所在地	岡山県岡山市南区福島3丁目5-15		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 30 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100109-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100109-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12
訪問調査日	令和 5 年 1 月 19 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には桜の花見、秋には畑で芋ほり、園庭の緑・季節の花や自然と触れ合って四季の移り変わりを感じていただける環境作りを行っています。ご利用者一人ひとりの出来ること、したいことに注目してその人らしく生活していただけるように、個別性を大切にしたケアを考えています。楽しみのひとつである食事については、食べることへの意欲や興味が深まるように毎月リハビリクッキングを行ったりと、ご利用者に何らかの形で食事作りに参加していただけるように支援をしています。現在は地域との交流は控えている状況ですが、地域やご家族のボランティアの方との関わりを大切にしており 皆で支えあって生活していると感じていただける施設作りを行っています。ご利用者皆さまに楽しみがあり、安心できる場所、笑顔があふれるグループホームを目指しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点として上げられるのは、次の3点である。まず、リハビリクッキング(月1~2回)を通じて、個々の残存能力の維持・継続に繋げていること。二つ目に、利用者の食べたい物を取り入れたバイキング形式での食事やお弁当購入など、非日常的な気分を味わいつつ、楽しく食事ができる様に支援していること。三つ目に、コロナ禍の中、感染対策を徹底しながら積極的に外出する機会を増やしており、利用者及び職員の気分転換・ストレス発散になっていることがある。工夫点としては、より質の高いケアを目指し、言葉遣いの向上に向けて個人目標を設定していることがある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員には入社時のオリエンテーションで説明している。意識づけが出来るようにスタッフルームと玄関に掲示している。	スタッフルームと玄関に掲示し、周知すると共に、年1回、全職員を対象とした理念研修を行っており、ケアを見直す時など、振り返るように指導している。新人職員に対しては、入社時に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の小学校や保育園、町内会とも交流を控えており出来ていない。	コロナ禍のため現在は実施していないが、小学校の行事に参加したり、保育園と交流したり、ボランティアが来訪したりしていた。町内の溝掃除にホーム長が参加し、挨拶したり会話したりして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア(婦人会や中学生の職場体験など)で、ホームを訪問して頂く事によりホーム内での様子を知ってもらえるように努めている。現在は新型コロナ感拡大のため実施しておらず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症対策で書面会議としている。ご意見や要望があれば個別にうかがう事している。	2ヶ月に一回書面会議を開いており、参加メンバー全員に議事録を送付している。意見等は電話で聞いたり、来訪した際に聞き取っている。地域包括から、コミュニティプラザでやってるカフェや地域の防犯、8050問題等の情報を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響で来園の機会が減少し、意見交換の場があまりなくなっている。窓口では生活保護受給のご利用者様の生活状況について現状の報告をしたり相談をしている。	運営推進会議が書面会議となり、直接、市担当者や地域包括等と話し合う機会は少なくなったが、聞きたい事や分からない事があれば、書類を届けに行ったり電話した際に聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社オリエンテーションで「身体拘束等適正化のための指針」をもとに指導をしている。また、3カ月ごとの身体拘束適正化検討委員会で事例検討し職員全員の身体拘束に対する意識の向上を図っている。	3ヶ月に一回、身体拘束適正化検討委員会を開いており、その中で日頃から疑問に思っていることを検討している。また、年2回内部研修も実施しており、身体拘束に関する理解度は高くなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社オリエンテーションで「高齢者虐待防止法」をもとに不適切ケアについて話をしている。また、言葉遣いの乱れがケアの乱れに繋がることより、接遇改善に向けて「個人目標シート」で個々に意識付けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画で権利擁護についても組み込んでおり、勉強会を実施して職員に周知を図った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明をするように心がけている。料金、リスク面や看取りへの対応についても納得を得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の思いを遠慮なく相談して頂けるような雰囲気づくりを心がけている。外部の相談窓口についても利用契約時には説明している。	家族は面会時に、利用者は日頃の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族から外出・外食について聞かれた時は、コロナのため個別対応できない旨を伝えている。利用者の要望(出かけたり、買い物に行きたい)に対しては、柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が発言しやすい環境になるよう日頃からコミュニケーションの機会を持つようにしている。またスタッフ会議では参加スタッフが意見を出しやすい様に配慮している。	個別面談は行っていないが、スタッフ会議(月1回)の他、日頃から雑談を交えて話し合っている。職員から出た意見等(特浴設備の設置、休憩室の環境整備など)は上司に相談すると共に、要望等は、施設会議(月1回)の時に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の良好な人間関係や、ストレスの要因の把握に努めている。個々の能力や得意分野を活かすことが出来る環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには社内研修には積極的に参加してもらっている。未資格のスタッフについては認知症基礎研修の受講を勧めており、ほとんどのスタッフが受講終了してきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修で意見交換をし、ケアの改善や見直しに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の困っていること、不安なことをまず十分聞き取り、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立って思いを理解し、これまでの経緯をしっかりと伺うよう努めている。ご家族の要望に対して事業所として出来る対応をきちんと伝えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族の要望を聞く中で、必要なサービスが受けられるように支援している。出来る限り柔軟に対応させていただき、理解が得られるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることや、こだわりを理解し、得意分野には参加していただき教えていただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所を訪れやすい雰囲気心がけているが、コロナ渦になってからは動画や写真でお互いの様子を伝えられるよう、ご家族にLINEのやり取りの支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、知人や親せきと電話での連絡や、手紙のやりとりが継続出来るよう支援している。普通だった馴染みのある店に行ったり、つながりを大切にしている。	電話の取次ぎや年賀状のやり取りなど、馴染みの関係が途切れない様に支援している。また、コロナの状況を見ながら、積極的に近所の店に買い物に行ったり、馴染みの図書館に出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段からご利用者同士の関係性に気を配り、仲間であるという意識を持って頂けるように関わっている。気の合う方同士で何かに取り組んでいただくなど配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの暮らしを継続していけるよう必要な情報の提供を行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にしづらい思いも、日々の行動や表情などから汲み取り、把握に努めている。	思いや暮らしの希望等の把握が難しい時は、利用者と家族が会話している時に横で聞いたり、生活歴を確認したりして対応している。また、利用者の思いに沿ったケアができているか、もっとこうしたいなど、日々自問自答しながら把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ詳細なフェイスシートを作成し、ご本人の情報を共有して支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムや習慣が違うことを理解し、その人らしく暮らしていくための支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中での気づきや、ご本人の要望、ご本人の視点での課題について、担当スタッフを中心にカンファレンスを行って介護計画を作成している。	入院等、状態が変化した時はその都度、モニタリング結果や日々の申し送り等で得た情報を基にカンファレンスを行い、ケアプランを見直している。また、主治医や事業所内の看護師から医療面に関する意見や提案等が出た時は、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意して、気づきや状況変化を把握している。介護計画が反映された、ご利用者の暮らしぶりが目に浮かぶような介護記録を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、医療機関への受診、通院、送迎等必要な支援は予定外であっても柔軟に対応出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議を利用して地域包括支援センターとの情報交換を行っている。(現在はコロナ禍のため参加して頂いていない)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関と連携しながらいつでも適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所の協力医がかかりつけ医であり、24時間体制で適切な医療を提供している。緊急時の対応はスピーディーであり、(緊急時に関わらず)直接主治医から話してくれるので、安心感がある。歯科はその都度、往診対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はご利用者の変化や気づきをこまめに記録するようにしている。その中で看護職と相談しながら適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、ご本人のストレスや負担を少なく出来るよう努めている。早めに元の生活に戻れるよう、医療機関・ご家族とも情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をふまえて、医師、職員と連携を取りながら希望に沿った最期を迎えられるよう取り組んでいる。	入居時、指針の説明を行い、確認のサインを貰っている。重度化する前から、その都度、医療的な部分は主治医が伝え、ホーム長が食事量などの現状を説明しながら、家族の希望や今後の方針を決めている。また、年1回看取りの研修を行うと共に、ケアカンファレンスの時に対象者がいれば、看取りの指針等について勉強会を開いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルスの感染者の発生も含め、緊急時や事故発生時に慌てず管理者、看護師、医師との連携ができるように勉強会で対応について周知徹底を図っている。防護具の着脱方法等の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方や近所の方にも防止訓練に参加していただいている。反省点は次回の訓練に生かせるようにしている。(現在はコロナ禍のため参加して頂いていない)	コロナ禍のため、消防署の立ち合いや地域の方の参加はないが、年2回、火災訓練及び水害・洪水・地震を想定した訓練を行い、消防署に報告している。また、水やお粥等の備蓄や持ち出しグッズを2階倉庫に保管している。	マニュアルの確認・実践に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの改善に向けて個別に目標設定し、指導を行っている。毎月の勉強会では事例を挙げながら話し合い、意識の向上に努めている。	赤ちゃん言葉を使用しない、大きな声を出さない、トイレのドアを閉めるなど、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。また、職員同士で会話する際の言葉遣いや、言葉がきつくなってしまう時の意識付けなど、カンファレンスの中で「言葉遣い」について研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合を押し付けず、ご利用者が自己決定できるように、個々に合った言葉かけを行いご利用者本位の支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、ひとくりでなく個別の思いや希望を尊重した過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みをお聞きしながら衣類を選んでいただいたり、訪問理美容の時にはヘアスタイルの希望をお伝えするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きや食器洗いなどの食事に関わる作業に参加していただいたり、好きなメニューをお聞きしてリハビリクッキングの日と一緒に調理をして食べる楽しみに繋げている。	利用者が食べたい物をバイキング形式で提供したり、食べたい弁当を買って外で食べたり、流行りの物(フルーツサンドなど)を取り入れたりして、食事が楽しくなるように工夫している。また、月1~2回リハビリクッキングの日を設け、一緒に皮むきしたり切ったりして、残存能力の維持に努めている。季節メニューや行事食もあり、利用者にとって喜び・楽しみの時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、個々に合った食事形態で1日の必要量が確保できるよう支援している。食事量や食器等も個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で口腔ケアをしていただき口腔内の清潔保持に努めている。必要な方にはスポンジブラシやコンクールを用いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者個々の排泄パターンやサインを全職員が把握し、尿意のないご利用者にも時間を見計らって誘導している。リハビリパンツやパッドもその方に合った物を状況に応じて検討している。	排泄記録により、個々の排泄パターンを把握している。昼間は、トイレ誘導とリハビリパンツ、パッド交換で対応し、夜間は、リハビリパンツやパッド交換、ポータブルなど、個々の状態・状況を観ながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、トイレで排便できるようにしている。水分量や食事もにも注意し、主治医に相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を重視しながら、職員と1対1で関われるゆったりとした楽しい時間になる様に配慮している。寒い時期には入浴剤を入れたり、冬至にはゆず湯を楽しんでいただいている。	週2～3回の入浴を基本とし、毎日入りたい利用者の希望はなるべく叶えている。入浴を拒否する時は、職員や時間、曜日を交えながら対応している。ゆず湯や入浴剤の色・香りで楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムを整え、午睡の必要な方や就寝時間の遅い方など個々に応じた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方に変更があれば申し送りやケアボードで周知し、状態の観察に努めている。配薬方法の見直しをし、職員の配薬ミスのないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の楽しみや、得意な事で力を発揮していただき、その方らしい姿が見られる場面作りを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策のためご家族との外出は出来ない。気分転換に園庭を散歩したり、図書館に本を借りに行ったり一人ひとりの希望には添えていないが、外出の機会を設けている。	日常的に事業所周辺を散歩したり、庭や畑に行ったりしている。また、感染対策をした上でコロナの状況を見ながら、初詣に地元の岡南神社へ行ったり、秋に浄化センターのコスモスを観に行ったりしている。家族との墓参りや外出・外食は中止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力のもと、お財布を持っているご利用者もおり、買い物に出たり、移動販売の日にはお金を使っていただく機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に相談の上、希望時には電話をかけていただいたり、年賀状・暑中見舞いを出していただく支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関には園庭の季節の花を生けて楽しんでいただいている。ホールではテーブルを増やし、気の合うご利用者でくつろぎ事が出来るよう配慮している。	日中定期的に窓を開けて空気を入れ替えることで、適切な温度・湿度を保っている。また、庭で取れた花を生けたり、季節の創作品を掲示して、季節感を醸している。1階のテラスで日光浴したり、共有ホールで職員と会話したり、運動するなど、個々の生活リズムで居心地よく快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル以外の場所にもイスやソファを置き、くつろげるスペースを作っている。1Fはテラスにもイスを置き、ご利用者同士で日光浴をしたりゆったりとした時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、ご本人の思い出の写真やなじみの物を配置して、安心感のある環境となるようにご家族にも協力をお願いしている。	庭で取れた花を生けたり、好きな歌集や自分で書いた絵、趣味の物(手芸品等)を持ち込んだり、家で使用していた物を使用したりして、個々に居心地良い空間になるよう工夫している。家具等の配置は、家族と相談しながら決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が安心して過ごせるように、危険防止と自立支援の面で物の配置等に配慮している。居室においてもご本人の状況にあわせた環境の改善に努めている。		